

平成24年度社会貢献プロジェクト

視覚に障害のある乳幼児の早期段階における支援事業としての育児学級ミニ講座の整備・拡充

星 祐子(附属視覚特別支援学校 副校長)

1. 事業の概要

視覚に障害のある0歳児から2歳児までの乳幼児とその家族・関係機関等への支援事業の展開

○週1回の定期的な育児学級

グループ活動、見えや聞こえについての相談・支援、育児に関する相談

○ミニ講座の開設

テーマを設定して講座を開設

子育て、障害理解・支援等に関する情報発信

○地域の保育園等への訪問相談の実施

○小冊子「育児ノート」の作成・活用



育児学級の様子



ミニ講座の様子

2. 事業成果の概要

○育児学級

0歳・1歳児グループ 27回実施 のべ347名参加

2歳児グループ 27回実施 のべ191名参加

○ミニ講座

9回実施 のべ363名参加

参加者:保護者、保育士、保健師、乳幼児施設職員 その他

テーマ:「からだを動かして遊ぼう」「視覚に障害のあるお子さんの子育てについて」「手や指を使ってたくさん遊ぼう」「たのしいふれあい遊び」「先輩お母さんのお話を聴こう」など

○地域の保育園等への訪問相談



○小冊子「視覚に障害のある子どもの健やかな育ちのための育児ノート」の作成・活用

育児学級等で出された質問や疑問をもとに、「育児ノート」を作成し、活用を図った。



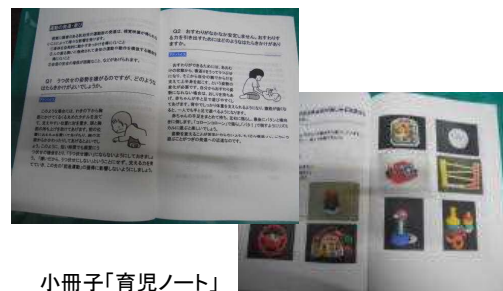
3. 地方自治体等との連携

ミニ講座においては、地域の保育士、保健師、看護師、乳幼児施設職員など乳幼児期から療育・支援に関係する専門職の方々に参加いただき、好評を得ている。講座の内容に応じて、大学教員、こどもの城等の団体の協力を得て、実施している。

また、眼科医からの紹介により0歳児からの超早期の相談が増えている。他にも、地域の保育園、保健所等から訪問相談の依頼なども増え、関係諸団体や地方自治体等との連携協力を図ってきているところである。

4. 今後の展望

子育て支援については社会の中で取り組んでいくべき内容であるが、特に障害のあるお子さんとその保護者・関係者への支援は超早期段階から求められていることを実感している。長年にわたる視覚の乳幼児期からの支援実績をもとに、今後も多様な社会的ニーズに応えていきたい。



小冊子「育児ノート」